

此頃思ふ事を

○

内務省囑託 甘粕 なべ子 (談)

これ迄、我國では、大人の頭から考へ出した事で子供をたゞ満足させれば、それで親も、世間も満足して、いかにも子供のためになつたと思つて居つたやうですが、近頃は、餘程この點に自覺して來たやうです。大人の頭から考へ出した事が果して子供を満足させるか否か、先づ子供を育てるには、自ら子供の様になるといふことが一番大切なことではありますまいか。私が最近關西に參りました時に、低能兒を教育する人にあひました。その人のいはれるのに、「低能兒を教育するには、先づ自ら低能兒とならなければならぬ」と。これは意味深い言葉であると思ひました。

昔から、子供は一國の資本といはれてゐる位でありまして、その教育の如何で、どうにでもなつてゆくものであります。その教育は廣い意味では社會ですが、これを最も直接に行つてゐるのは、何といつても婦人であります。そして、その教育といふこと

と同時に、やはり幼兒期は、養護といふことが大切であると思ひます。多くの家庭が、その日常の衣食住にも少し幼兒のたつてほしいと希はざるを得ないのは、いざ病氣になると、母親は不眠不食で心配しますが、平生の保健といふことに、どうも注意がたりなくはないかと思ひます。これについて、申上れば限りなく問題はひろがつて參りますが、その一つとして私の日頃感じて居る事を申上りますならば、母親が、子供のお守をしながら自分の仕事をやるようにしたいといふことで、これは一寸無理なやうですけれども、少し心を用ふれば、子供のためになつて、しかも仕事は出来るものです。私が米國にをりました頃の事を思ひ出して今でも氣持ちのよいしかも羨しいほどに思つたのは、母親が子供をなるべく戸外の空氣にふれさせよう、しかし危険のないようにと思つて、よく、あちらでは、まだ小さい子を乳母車にのせて連れだし日向ぼっこをしながら母

親はかたはらに編物をしたり、本をよんだり、時々子供をかまつてゐるといふことです。生活状態も違ひますから一概にたゞ、かれこれ申上られませんが、お母さん方がもう少し時間を上手につかひ、また、子供の養育といふことに、徹底した考へをもたれるようになれば、今よりも以上に子供の家庭生活は改善されるものではなからうかと思ひます。そして、私の考へとして、事情の許すかぎり小さい頃から美的な思想をしらずしらず養ふやうにしたいと思ひます。いつとなしにこの心が養はれてゐれば、將來何かの誘惑にあつても、はつきりと、その善悪美醜



私は、子供の保健衛生といふことを、も少し、世の母親が考へて頂きたいと、いつも思つて居ります。ごく手近い例で申しますなら、子供を戸外へつれ出すといふ場合にも、今迄室内に居つた時とは、溫度その他が大分違ふのですのに、それを不用意につれ出したり、夜のつめたい空氣にながくあてたりする一寸したことで、子供の健康をそこなふことがよくあります。そして、どうも、各家庭に醫學的思想

がわかることになりませう。出来れば、音楽も小さい時から趣味として養ひたいものです。これは何も大仕掛にしなくても蓄音機の板のよいのをゑらんで時々きかせる。子供はその曲の意味はわからなくてもよろしいので、美しい音として頭に残つてゐるだけでよいのです。成るべく不必要な、いやな事柄が幼ない頃の頭の中へのこらぬ様にすれば、やがてその力を用ふる時にも、無駄な努力をしないで、もつておる力を、よい方面に用ひて行くことになるかと思ひますし、私共の心持としては、さうしたいものであると希ふのです。

内務省囑託

林 ふうく子(談)

衛生に關する根本になる知識がまだく缺けてゐると思ひます。随分、子供のためには、何くれとなく心配して、玩具はどう、繪本はどう、躰方はどうと苦心なさる母親でも、いざ病氣となると、たゞあはて、すぐに看護婦まかせにするといふことをよくみます。勿論、醫者や看護婦を信頼して、これにおまかせになるのは結構ですが、しかし、病氣は看護が第一で、ことに、幼ないほど母の手にこしたこと

はないのです。醫學的に少しでも大體のことがわかつてゐれば、そして平常から子供の保健について、

充分に根本的に考へて注意してゐれば、突然、愛兒が發病したといつてびつくりするようなことはなく未然にふせげる場合が多いと思ひます。専門的のことは醫者にまかせるとしても、婦人として、一通りの、通俗的なことでよろしいのですから醫學に關する心得があつてほしいと思ひます、これは婦人が主婦となるまへに、母となるまへに、その教育をうけてゐる時機の中に、何處かで養はれるようにありたい。乳兒幼兒の死亡でも、親の不注意、不衛生などから來ることが、どれ位あるかわかりません、姑息の愛のために、子供に衛生上面白からぬ習慣をつけて、その子供の健康を害つたり、榮養をさらせるつもりで、充分な知識がないために、かへつて子供の發育をさまたげるような方法をとつたりすることが随分あらうと思ひます。このごろは婦人運動も大分盛んになつて、參政權を得やうとする方面まで來たようですが、それよりも、先づ、婦人自身が自分の身體についての知識を、もつと充分に得てゐることが、婦人のために、また幼兒のために幸福であらう

と私は考へてゐます。

○獨逸の子供等牛乳に饑ゆ

獨逸は這般の平和條約によつて十四萬頭の乳牛を提供しなければならぬ事となつた、又最近の情報によれば佛國はその條約以外更に八十一萬頭の乳牛を要求したと云ふ斯の如き事情の下に子供に必要な乳を得る事が不可能となつた、現に南獨逸の小都會では日々百リートルの牛乳が必要なのに半分又は二十五リートルしかない場合が多い、元來乳牛は獨逸では戦前でも非常に少なく牛の食物も不足で乳の出方が少ない加ふるに砂糖の缺乏甚だしく目下は戦前より百何十倍の浪費で子供に必要な乳と砂糖とが缺乏して居るで現在獨逸では子供を充分に養育する事が出來ず子供の體質漸次退化し尙ほ人口は次第に減少の徴を示して居る、されば英米其他各種團體では日本の各慈善團體とも交渉し救濟策に就て研究中である、右に就き駐日獨逸大使ゾルフ氏夫人は語る「私が日本へ來て感動した事は子供の待遇の、事です物資上の満足及び學校教育が如何に完備してゐても兩親が子供を善く待遇しなければ性質が悪くなります、人格教育が教育中の中心であるとは獨逸の哲學的教育學者の新意見でオイケン氏等し此の考へを主張して居ります子供は待遇は子供自身に取つて大切な事であるのみならず其國民の運命に取つて重大な意味があります日本國民が子供の好待遇を實行して居る事は歐洲人の深く驚く事でありませう此の日本の親達も獨逸の饑饉に瀕して居る哀れな子供に同情を寄せて下さる事は信じて疑はない所でありませう、子供が牛乳に饑へるのは戦争の影響を子供に負はせる反人道的事實ですこの慘狀を救濟する爲めに獨逸には種々なる機關が出來てゐます前獨逸皇后が主催された「幼兒死亡救濟會」の會長小兒科醫ラングスマイン氏などは盛んに活動して居られます。(東京日々新聞より)